

白石小学校だより

平成29年度 第7号 11月1日
山口市立白石小学校 児童数684人

めざす児童像 「あいさつがしっかりできる子ども」 「まわりの人がうれしくなることをする子ども」
「まわりの人が困ることやいやがることを絶対にしない子ども」

～日本一笑顔の多い学校～



10月14日に行われた「大いちょうバザール」は、PTA役員さんをはじめ、たくさんの保護者の方々のご協力により、大盛況に終わりました。当日は天候にも恵まれ、室内の各会場、運動場のイベントなど、熱気にあふれていました。

皆様のご協力のおかげで、子ども達は楽しい時間を過ごし、笑顔あふれる一日にできたこと、本当にありがとうございました。

10月21日には、白石中学校の文化祭を参観させていただきました。合唱コンクールを聴きました。どの学級も一生懸命取り組んで、その成果を披露していました。小学校と中学校で連携して、小学校の6年間の積み重ねが中学校で現れるように。小中の9年間の積み重ねが中学校を卒業するときに現れるようにしていきたいと感じた時間でもありました。

10月22日には、萩市で行われた県PTA研修大会に執行部の方と共に参加しました。椿東小学校のカラーガードや明倫小学校の朗唱がアトラクションで披露され、その後、椿西小学校の活動紹介、「未来へつなぐ 子どもが輝く ほめ言葉のシャワー」と題して、教育実践研究家 菊池省三先生の講演がありました。講演の中でのいくつかの言葉を紹介します。

「大人も子どもも『ありがとう』をしっかり言おう。」
「目の前の相手は、あなたの鏡です。あなたが笑顔なら、相手も笑顔に。」
「子どもには自分の言葉で語れるMC能力が、これからは必要なのでは。」
「自己責任ではなく、自己外責任と考えている世の中になってないですか。」
「無くしたい言葉とあふれさせたい言葉をみんなで考えてみてほしいです。」
「子どもには『公』に強い『個』の育成を。」
「行きたい学校、帰りたい家庭、そして住みたい地域に。」



さて、毎朝、東の門であいさつをしています。（1学期は西の門でした。）感心していることを紹介します。1年生の女子で、20メートルくらい離れた遠くから大きな声で笑顔で気持ちよいあいさつをしてくれる子がいます。また、いつも立ち止まって礼をしてあいさつをしてくれる2年生の男子がいます。他にも、あいさつをされるよりも先にあいさつできる児童などが増えてきました。

先日の「大いちょうバザール」では、職員室の出入り口のところでしばらく立って、皆さんにあいさつをしていたところ、子ども達だけでなく、たくさんの保護者の方からもあいさつを返していただきました。ありがとうございます。学校では、「よい姿勢」とともに「気持ちのよいあいさつ」に力を入れています。日頃から、廊下を歩くときに私から「おはようございます」「こんにちは」と言うと、子ども達は必ず返してくれます。高学年になると給食当番の時に「会釈」がしっかりできる子どもも増えていきます。自分から先にできる子どもが増えるよう、大人からのあいさつを心掛けています。



白石小の子どもは「あいさつができるね」「姿勢がいいね」と保護者の方や地域の方に褒めていただけるよう、引き続き取り組んでいきたいと思えます。

校長 澄川忠男

～お知らせ～

山口市教育委員会から「平成29年度全国学力・学習状況調査山口市の結果」について、山口市ホームページにて公開された旨、保護者の皆様へお知らせするよう連絡がありました。【山口市トップページ>市政状況>教育委員会〔学校運営〕】 (<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/108/>)